

持続可能な社会における バイオ燃料の位置づけ

シンポジウム「バイオ燃料と土地利用～持続可能性の視点から～」 2009.3.5
NPO法人バイオマス産業社会ネットワーク(BIN)理事長
泊 みゆき

1

持続可能なバイオ燃料とは

【バイオ燃料の持続可能性に 関する共同提言(改定版)】

2

0. エネルギー需要削減

- エネルギー需要を削減するための抜本的対策を実施すること。
- 地域に存在するバイオマス資源あるいは土地利用に当たっては、食料生産、マテリアル利用などの他用途との比較や外部経済を考慮した上で、総合的な観点から検討すること。
- バイオ燃料導入のための補助金に関しては、上記の観点から慎重な見直しを加えること。

3

土地利用転換、食料生産との競合

1. バイオ燃料原料の生産に当たり、森林や泥炭地などの自然生態系の転換を伴っていないこと。
2. 食料生産のための資源(農地、土地生産力、水を含む)を圧迫しないこと。

4

トレーサビリティ、温暖化防止

3. 原料供給源が明確であり、サプライチェーン(供給連鎖)のトレーサビリティ(追跡可能性)が確保されていること
4. 農地開発に伴う土地利用転換、生産から加工、流通、消費までの全ての段階を通してトータルに、十分な温暖化防止効果が見込めること

5

原料生産のため、以下の責任が果たされていること

- 5-1 【法令遵守】
- 5-2 【環境・社会影響評価】
- 5-3 【社会的合意】
- 5-4 【環境管理】

6

持続可能なバイオ燃料の量的限界

- 土地、水など食料生産との競合
- 生態系、生物多様性保全との競合
- 原料となるバイオマスの食料、マテリアル利用、飼料、肥料(土壌還元)、電力、熱利用など他用途との競合

7

- バイオマスは持続可能な社会において重要な役割を担うが、持続可能な利用量は、現在の化石燃料需要の一部に留まるだろう
- 持続可能性に配慮しないバイオ燃料利用は、持続可能な社会への大きな脅威となりうる
- バイオマス資源利用を地域振興の手段とするなら、食料やマテリアル利用などより価値の高い利用の方が事業化がたやすい

8



持続可能な社会におけるバイオ燃料の位置づけ(？)

- 量としてはあまり頼れない
- 新規市場としての規模は大きい可能性がある。
持続可能性への配慮がないと、生産地などで社会的・環境的な問題が起こりうる
- 経済性は？ 税金、開発資金投入の費用対効果を他の利用と比較して行なうべきでは
- バイオ燃料の持続可能性配慮を、他の一次産品生産・貿易にも広げるべき